

人権作文 代表作品

10月19日(土)にかみかわハートフルデイ2024が開催され、表彰された人権作文です。ハートフルデイの様子は23ページのわだいのひろばをご覧ください。(敬称略)

一生わすれません

神川中学校三年 宮下 悠我

「先生ありがとうございます。一生わすれません。」
これは、母校の小学校に職業体験でお世話になった際、担当した児童からもらったお手紙です。無邪気でかわいい言葉に感動して、心が温かくなりました。

一方で、「一生わすれません」という言葉に責任感のようなものを感じたのを覚えています。そして私は、この職業体験をきっかけにして、相手の気持ちを思いやり行動することの大切さと、人権の意味について以前より深く考えるようになりました。

職業体験で私が担当したのは、二年生のクラスでした。そこには、自己主張が得意な子や、言いたい事はあるのに伝えるのが苦手な子など、本当に色々なタイプの子がいました。その中でも私が一番驚いたのは、自然に友達に優

係を築くことが出来る素晴らしい職業だと思っています。
しかし一方で、患者さんや児童生徒に対して、非常に重い責任を持たなければならぬ職業でもあると思います。一瞬の油断が命取りになることがあります。また、間違った行動や言葉が相手を深く傷つけてしまい、取り返しのつかない事になってしまう恐れがあると思います。そして、人の心と体の両方を大切に思い、人権を守ることを最優先で考えられる人間になることが、その職業を目指す資格だと私は思うようになりました。

今まで目指していた将来への道に、とても重要な階段がある事に気付かされ、これまでなかった不安や恐怖の気持ちも生まれました。そして、夢を叶えるためには、命と向き合うための強く優しい心を養う必要があると感じました。

職業体験の最終日に、「ありがとうございます。一生わすれません。」という言葉をもたらしましたが、自分の方こそ人生で一番大切な事に気付かされ、一生の宝物となる体験をさせてもらいました。母校の児童のみんなと先生方に改めて感謝の気持ちを伝えたいです。私も、皆さんと学んだことを一生忘れません。そして、全ての人の命と自分自身を大切にしながら生きていきます。



しい言葉をかけられる子がたくさんいたことでした。その子たちの純粋な心に触れ、自分もその行動を見習わなければいけないと思いました。それとは逆に、友達の見解を否定して自分の言いたい事ばかりを話している子も目にしました。その子に自分の見解を否定されてしまった子がとても悲しい顔をしているのを見て、咄嗟にたわいもない言葉をかけてその場をつないだのですが、今考えてみると、自分がその子たちに言っただけで出来なかった自分を情けなく思いながら、何が出来るか考えることがあります。

ただ一つ言えることは、周りから認めてもらえると人は心が温かくなり前向きな気持ちになれるという事です。私も、「ありがとうございます。一生わすれません。」という言葉をもたらして、ここで職業体験が出来て本当に良かったと思います、自分に自信を持つことが出来ました。

それは、自分が小学生だった時には考えたこともなく、今回先生という立場を体験してみて初めて気付いた気持ちでした。私は、学校というのは人権について学ぶ大切な場だということを今更ながら実感することになりました。そして、小学生の頃を思い出し、いつも先生方が真剣に人権の授業を行い、大きな声でメッセージを伝えていた意味を、やっと理解することが出来ました。

私には小学生の頃からの夢があります。それは将来、職業として医療に携わることです。今回の経験を通して、その私の夢の中に「子どもを守り、育てる事に携わりたい」という気持ちが新たに生まれました。私は、どちらも人の心に深く関わり、人権というものにも密接に関係している職業だと思っています。そして、どちらも人と「一生わすれない」関

じぶんもあいてもいい気持ち

神泉小学校二年 小島 啓

ぼくは、ともだちとなかよくするには、ふわふわ言ばをかけあうと思います。ふわふわ言ばをつかうと、いい気持ちになります。

たとえば、ともだちがこまっているとき、「だいじょうぶ？」と声をかけると、「うん、だいじょうぶだよ。ありがとう。」とこたえてくれます。また、ともだちがむずかしいものにちようせんして、できたとき「すごいね。できてよかったね。」と声をかけると「ありがとう。」と言ってくれます。声をかけて、「ありがとうございます。」と言われると、とてもいい気持ちになりました。

ふわふわ言ばは、言われたともだちも、言ったぼくも、いい気持ちになると気がつきました。これからも、ともだちがこまっていたり、けがをしたりしたときには、「だいじょうぶ。」って声をかけよう、と思います。

もう一つ、気をつけたいと思ったことがあります。それは、ともだちにちゅういするときの言い方です。つよく言ったり、なんどもちゅういをしたりすると、あいてがいやな気持ちになると思いました。あいてがきずつかないような言い方で、ちゅういすることがたいせつだな、と思いました。これからも、ともだちがこまっていたら、「だいじょうぶ。」と声をかけたり、ともだちと話すときには、ふわふわ言ばをつかったりして、じぶんもあいてもいい気持ちになれるようにしていきたいです。